



THE ROTARY CLUB OF SADOWARA WEEKLYBULLETIN

佐土原ロータリークラブ週報

1995・96年度国際ロータリー・テーマ 国際ロータリー会長 ハーバート・グラハム・ブラウン



Act with Integrity
Serve with Love
Work for peace

ロータリー財団月間

〈本日のプログラム〉

第 386回 平成 7年 11月 10日(金)

- 1. 点 鐘 国歌斉唱
- 2. ロータリーソング
「それでこそローター」 「四つのテスト唱和」
- 3. 食 事
- 4. 会 長 の 時 間
- 5. 幹 事 報 告
- 6. 各 委 員 会 報 告
- 7. 点 鐘
 歓 送 迎 会

会 長 藤 堂 孝 一
副会長 斎 藤 芳 夫
幹 事 福 井 輝 文
会 計 中 武 靖 雄
会 議 員 長 垂 水 敏 雄

佐土原ロータリークラブ

例会日 毎週金曜日(12:30-13:30)
 例会場 ホテル神宮寺 ☎0985-73-0015
 事務所 ☎880-02佐土原町大字下田島7912
 (株) 福井工務店内☎0985-73-0291

第385回例会記録

(1995. 10. 27)

☆会長の時間

藤堂孝一君

皆さん今日は、本日は第385回例会です。今月は職業奉仕月間ですので、例会プログラムに予定してありますとおり、職場（佐土原城址歴史資料館「鶴松館」及び佐土原町埋蔵文化財センター）訪問をさせていただくことになりました。

事前折衝や諸準備に多大なご尽力をされました職業奉仕委員長大野高志君と、本日専門的な立場から資料等についてのご解説を引き受けていただきました、佐土原町埋蔵文化財センター所長赤木達也君に対しまして、深く感謝申し上げます。

郷土の歴史・文化を学ぶよい機会であると思いますので、ご説明を聞きながら、時間の許す限り展示資料をゆっくりご覧ください。

☆幹事報告

福井輝文君

例会変更通知

- *小林RC 11月1日 12:30
本坊酒造(株)小林工場
- *宮崎西RC 11月3日は休会
- " 11月17日12:30
サミットホール
地区大会会場準備のため
- " 11月24日は特別休会
- *宮崎北RC 11月15日18:00
ホテルフェニックス
- *宮崎中央RC 11月23日は休会

☆出席報告

委員長 恒吉正志君

会 員 数	30名
H C 出席者数	25名
欠 席 者 数	5名
出 席 率	83.3%
メークアップ者数	1名
修 正 出 席 率	86.7%
欠 席 者 名	秋・肝・細・辣

☆会員増強委員会

より 委員長 正岡文郁君

ご入会予定の方をご紹介します。

伊東俊春君

昭和22年7月27日生

本 籍 宮崎市大字広原2810

現住所 同 上

学 歴 宮崎市立住吉中学校卒業

職 歴 昭和38年4月 愛知県に就職

昭和42年~56年 建築業に

勤務し、昭和57年より独立

平成元年7月(有)伊東工務店

を設立し代表取締役就任、現

在に至る

ご家族 令夫人 涼子さん 自社 経理

ご長女 菜穂子さん 自社 事務

ご長男 寿俊さん 専門学校生

ご結婚記念日 昭和48年7月17日

ご趣味 ゴルフ・温泉旅行

会社所在地

佐土原町大字下田島20031-1

野崎宗志君

昭和28年1月9日生

本籍 佐土原町大字下那珂9062

現住所 佐土原町大字下那珂9064

学歴 宮崎県立宮崎農業高校卒業

職歴 昭和50年(有)野崎造園を
設立し代表取締役役に就任、現
在に至る

ご家族 令夫人 悦子さん

ご長女 美穂子さん

ご次女 ひとみさん

ご長男 ひろふみさん

ご結婚記念日 昭和55年11月6日

ご趣味 ゴルフ・釣り・彫刻

この後、佐土原城址歴史資料館『鶴松館』及び佐土原町埋蔵文化財センターを見学し大変勉強になりました。

☆会員卓話(10/20)

恒吉正志君

佐土原ロータリークラブに入会しましてから1年2か月になります。今日が私にとっては初めての卓話です。何か皆さんのお役に立つようなお話でもと考えていたのですが、仕事に追われて資料の準備ができませんでしたので、自分の生履歴などを紹介させていただきます。

先ず名前の由来ですが、私が1月4日生まれでしたので、正月の『正』をつけ、また出生地が志布志の近くにあった関係で、『志』(4=しにも通じる)をつけたのだそうです。

都城地方の冬は霧島嵐で寒気が厳しいため、暖房機具も普及していなかった時

でしたので、生後暫くは草笥の引き出しの中で私を育てたと母から聞いています。

小学生の頃は田植え休みがあったのを覚えています。当時の田植えは農家にとっては家族総動員が必要でした。私たちは幼い弟妹の世話を分担しました。

勉強はあまり好きな方ではありませんでしたので、山学校(学校に行ったふりをして、山中に造った小屋で友達と遊ぶ)もたびたびしておりました。

中学校に入学すると、父親も私の将来について気を配りましたが、機械を扱うのに小さい頃から興味があった私は、都城工業高校機械科に進学しました。

高校3年になって、担任教師から進路の希望を尋ねられ、県内企業への就職を考えていると回答しましたところ、宮崎市の現日米商會が設立していました「日米カーケアセンター」を紹介していただき、卒業とともに入社しました。

私の担当部門は、外車(フォルクスワーゲン、ベンツ、キャデラック等)の点検・修理で、主な顧客は医師でした。

当時はミニスカートの流行期で、若い女性がフォルクスワーゲンの修理に来ると、車の下に潜って修理するのが一番の楽しみでした。エンジンが車の後部に設置してありましたので、ハンドルの下の方からは見通しができたのです。修理の技術と早さでは負けない自信がありました。昭和47年に明和砂利に入社し、重機の修理、建設機械、土木、砂利採取の業務を担当してきました。

現在は(株)明和産工と改称し、不肖私が代表取締役社長に就任しております。



健全な家庭を築く 要素を培う

家庭の安定性を強化するプロジェクトの開発を、会員に動機付ける方法のひとつとして、以下の項目を、ロータリー・クラブ会報に掲載することができます。

- 健全な家庭は、コミュニケーションを大切にします。 お互いに話し合い、気持ちを表現し、批判的態度を避ける雰囲気は家庭内に作り上げることが、家庭内のストレスや誤解を克服するための主要な要素です。子供達が、家庭内での意思決定に参加することができれば、指導者としての技術を、早くから身に付けることができます。最も重要なのは、子供も親も、同様に、家庭生活の中で、有意義な役割と家族への帰属感を持つことが必要であるという点です。
- 健全な家庭は、一緒に過ごす時間を持ちます。 一緒に時を過ごすことは、家族のメンバーが、お互いの価値を認めるのを助けます。一緒に食事をしたり、礼拝に参列したり、宗教的、社交的活動や、学校での活動へ参加したりするなど、一緒に過ごす時間を作るように特に努力することによって、共通の経験と価値観を築き上げて行くことができます。
- 健全な家庭は、尊敬と規律の念を培います。 各自の行動に明確で納得の行く裏付けを与えることは、愛の表現のひとつです。なぜなら、それは、自制心という必要不可欠な美德を植え付けるからです。理想的には、子供達が家庭内でのきまりを弁え、親達は、それを守る義務があることを徹底させることです。けれども、厳しすぎる懲罰は、全く逆効果で、怒りと悲痛をもたらすだけに終わります。
- 健全な家庭には、虐待は存在しません。 慈愛、尊敬、思いやりが、家庭の調和にとって必要不可欠な要素です。ロータリー・クラブは、法廷や社会的行動の分野の専門家と協力しつつ、家庭内で虐待や暴力へと発展する可能性のある状況を回避するのを助けることができます。配偶者虐待や虐待児の被害者は、私達の助けを必要としており、加害者と同様、回復の過程は、長期にわたるリハビリテーションを必要とします。
- 健全な家庭は、争いを解決します。 脆い家族の絆を強化することは、意見の相違を平和的に解決し、絶え間のない争いによって形成される破壊的な雰囲気を回避することになります。自分が間違っていた時には謝り、家族の欠点を許容し、異なった意見をも受容し、相手を励ますことは、家庭内の平和の土台を築くこととなり、それが、究極的には、社会の平和をもたらすこととなります。
- 健全な家庭は、薬物とアルコールを濫用しません。 疑いや不安を解消する方法として薬物やアルコールを用いることを避けることによって、子供達に対して模範を示さなければなりません。若者達に薬物の試験的使用を避けさせるには、健全な活動と教育が伴った強い家族の絆が必要です。初めは無害な行為と見えることが、中々へと発展し、自分自身と家族にとって悲劇を生み出すということを、若者達に自覚させることが非常に重要で
- 健全な家庭は、寛容を実践します。 世界の中であろうと、家庭の中であろうと、乱用された力が他者に意思を強制するとき、危険な状況が生まれます。他人の意見に敬意を払い、人々の中に善意を認め、人々の多様性を認識し、それぞれの相違点を維持しながらもお互いに寛容な態度をとるという能力が、より良い家庭、より良い世界を形成して行くのです。
- 健全な家庭は、思いやりを奨励します。 子供達は、幼少のころから、思いやりの行為が、他人と自分の双方に喜びをもたらすことを習うべきです。子供達に感謝の気持ちを表現したり、心からの褒め言葉を与える親達は、子供達に、思いやりと感謝の念を植え付けているのです。

第388回例会記録

(1995. 11. 24)

☆会長の時間

藤堂孝一君

皆さん今日は、本日は第388回例会です。11月22日(木)にロータリー財団委員長柳田光寛君、SAA田村勝二君、幹事福井輝文君と私の4名で、西都市の敷島ホテルから宮崎市のホテルフェニックスまで、無事GSEメンバー5名を送り届けて来ました。

ホテルフェニックスには、岩下哲夫バスタガバナーと原田實太郎国際奉仕委員長が待機されていて、GSEメンバーを温かく迎えるとともに、私たちの労をねぎらってくださいました。お二人とも英会話に熟達されているのには感心しました。国際化の時代ですので、今からでも簡単な英会話ができるように勉強したいと思った次第です。

その前夜(11月21日)の西都RC例会の後で、GSEの方の歓迎パーティが開催され、福井幹事と私が出席しました。西都RCの国際奉仕委員会・R-財団委員会の皆さんのGSE受け入れに対する熱意がひしひしと感じられて、頭の下がる思いでした。私も突然の指名でしたが、歓迎の挨拶をさせていただきました。大変和やかな、楽しい歓迎パーティでありました。

☆幹事報告

福井輝文君

1. 例会変更通知

*日向中央RC 12月6日 15:00
南郷旅館(職場訪問)

2. 明日からの第2730地区大会には、全員のご出席を重ねてお願い申し上げます。11月25日(土)は12:30まで、11月26日(日)は8:30までに会場のホールに集合してください。

☆出席報告

委員長 恒吉正志君

会 員 数	32名
H C 出席者数	25名
欠 席 者 数	7名
出 席 率	78.1%
メークアップ者数	5名
修正出席率	93.8%
欠 席 者 名	垂水・井下

本日のビジター

宮崎北RC 清水秀俊君

西都RC 池田洋文君

◎清水秀俊君から多額のハッピーをいただきましたので、ご報告とともに厚く御礼を申し上げます。

☆西都ロータリークラブ財団委員長

池田洋文君のご挨拶

11月20日(月)に延岡RCから高鍋町でGSEメンバーを引継ぎました。佐土原RCの藤堂会長・福井幹事にもご出席いただき、高鍋町の山椒茶屋で昼食会をしましたが、GSEメンバーは、その日本古来の建築様式に感動していたようでした。

高鍋町に保存されている武家屋敷にも案内しましたが、ここでも大変興味を示していました。

それから石井十次記念友愛社では、石井十次がここで孤児を育てたという偉業に深い感銘を受けたようでした。

西都市に入って、西都原古墳群、歴史資料館などを案内しましたが、日本の古代文化への関心は深いものが感じられました。

その夜はホームステイで、それぞれのファミリーに受け入れをしていただきました。クラブ会員も分担して各ファミリーを訪問し、GSEメンバーとの楽しい語らいの一時を過ごしました。

翌日(11月21日)はGSEの主目的である職業研修を行いました。

西都市内の不動産業、社会福祉施設、小・中学校、宮崎市内の宮崎日日新聞社、MRT等、各自の職業に関係のある職場を訪問して研修をしました。

中でも、宮崎日日新聞社の一日カメラマンを勤めたローレンス・ジャクソン氏が、宮崎空港で行われた消火救難総合訓練状況を取材した時の写真は、翌22日の宮崎日日新聞にGSEの記事とともに掲載されました。

私が一番気に掛けていたのは、ホームステイ先のファミリーとGSEメンバーとの間に、言葉や生活習慣の違いから、たまにはトラブルが起きはしないか、果たしてうまくやっけて行けるであろうか、ということでした。

ところが11月21日の歓迎パーティには全ファミリーが出席し、GSEメンバーとすっかり打ち解けていて、パーティは大いに盛り上がりました。翌日お別

れの時には、肩を抱き合って別れを惜しむ姿が各所に見られました。

ファミリーたちも私も、GSEを受け入れて本当によかったと思います。

今後も毎年GSE交流事業は続くと思われれますので、佐土原クラブにおかれましても、1~2名のホームステイを受け入れていただいて、この感激を味わっていただきたいと考えます。

以上、今回のGSE受け入れについてのご協力へのお礼と報告にさせていただきます。

☆佐土原ロータリークラブ事務所についての提案 会長 藤 堂 孝 一 君

当クラブの事務所は現在まで幹事の事業所又は自宅にしてありましたが、本来の形としては機能的にも所定の事務所を設けるべきであると思えます。

私どもの加入しています建設業協会の事務所が町役場の裏にあり、女性の事務員が一人おられます。そこを当クラブの事務所にし、その女性事務員に兼務してもらうのが最適ではないかと考えます。

給与の支出、電話・FAXの設置など予算面の問題が先行しますので、ご検討をお願いいたします。

◎11月セレモニー受祝者ハッピーボイス

11月17日の例会で、佐土原RCの皆様から誕生日の記念品を頂き、厚く御礼申し上げます。11月28日で満56歳になります。今後とも健康管理に努めていきたいと思えます。誠に有難うございました。

梶田與之助

ロータリー小史

ロータリー運動は、1905年2月23日の晩、乱雑に広がったシカゴの街で孤独と疎外感に悩む青年弁護士ポール・ハリスが、かねて温めていたアイデアについて話し合うため、3人の友人と会合したとき生まれました。その3人とは、石炭商のシルベスター・シール、鉦山技師のガスターバス E. ローア、そして、仕立業のハイラム・ショーレーでした。ポール・ハリスとこの3人は、シカゴ市内のユニティ・ビルにあるローアの事務所(711号室)で落ち合いました。このユニティ・ビルはシカゴの北ディアボン街127に今なおあります(というのは、ロータリー創立80周年に、シカゴ・ロータリー・クラブ会員が事務所を修復し、調度品や事務機や当時の記録を備え付けたからです)。

この会合でポール・ハリスは「実業人が友愛の気持をもって親しみ合い、仕事のうえでの知り合いの輪を広げていくために定期的に集まる会をつくる」というかねてからのアイデアを提案しました。

これについて、4人がいろいろと話し合った結果、一つの職業から1人だけを会員として選んで、男性のクラブをつくることになったのです。このクラブは週に1回、会員の店あるいは事業所を、輪番に会場として開くことに決めました。会場を輪番に使うことにしたのは、会員がお互いの仕事について、よく知ることができるようにするためでした。この輪番にちなんで、クラブの名称を「ロータリー」としたのです。

ロータリー創立にかかわったこの4人も、米国人でしたが、それぞれが英国系、ドイツ系、スウェーデン系、そしてアイルランド系の人であり、信仰する宗教もプロテスタント、カトリック、そして、ユダヤ教などまちまちでした。すべては、人種、呼ばれ方と呼ばれる米国の所産であり、その意味では、やがては国際的な運動となる使命をもったこのクラブの創立会員にふさわしい顔ぶれであったというべきでしょう。

印刷業のハリー・ラッグルズが、第5番目の会員として入会したあと、このグループは、シカゴ・ロータリー・クラブとして、正式に発足しました。同クラブの最初の会員名簿(1905年作成)には、30人の会員が記されており、会長がシルベスター・シール、それに不動産業のウィリアム・ジェンセンが幹事、ハリー・ラッグルズが会計ということ

になっています。そのほか歯科医のウィリアム R. ネフが会合の「進行係」でした。このときポール・ハリス自身は、この新クラブではどんな役職につくことも辞退し、2年後に初めて会長になります。会合のときに歌をみんなで歌う習慣をつくったのは、ハリー・ラッグルズであり、これはいまでも多くのクラブで引き継がれています。

このような、新しいクラブができたというニュースは急速に広がり、会員数もふくれあがって、会員の事業所で会合を開くことができなほになりました。そこで、毎週の例会は、レストランやホテルで開かれるようになっていきました。

ポール・ハリスは、シカゴ・ロータリー・クラブを、単に会員同士の商売や、事業の便宜をはかるためだけのものにする気持はありませんでした。

会員同士の親睦を重くみる一方、クラブとして、何か地域社会のために役立つ活動をしたという希望を、始めからもっていたのです。そして、クラブ創立後2年たった1907年に、クラブ最初の社会奉仕プロジェクトが行われました。公衆便所が一つもなかったシカゴ市役所の近くに、初めてつくったのです。

シカゴ・ロータリー・クラブ創立の3年後には、2番目のロータリー・クラブがカリフォルニア州サンフランシスコに結成され、その翌年には、新たに三つのクラブが結成されました。そして、全米の都市にあいついでロータリー・クラブがつくられ、1910年には、全米のロータリー・クラブ総数は16、会員数は合計1,500人に達するまでになったのです。

1910年にロータリーは、初めての大会をシカゴで開き、この大会で16クラブを加盟クラブとする「全米ロータリー・クラブ連合会」が結成されました。そして、ポール・ハリスがこの連合会の初代会長に選ばれ、事務総長には1908年にシカゴ・クラブに入会したチェスリー R. ベリーが選ばれました。ベリーは1942年に引退するまで事務総長を務めました。会計にはエルマー A. リッチが選ばれましたが、そのあとルファス・チェイピンが1912年から1945年に亡くなるまで在任しました。

奉仕の理想が次第に具体化していったのは、アーサー・フレデリック・シェルドンがシカゴ・クラブに入会したところからのことです。

